

質問力を磨く(社会と向き合うⅡ)

科目ナンバリング CAE-228

選択 4単位

松本 美奈・霜鳥 駿太・中村 まい

1. 授業の概要(ねらい)

徹底的にアウトプットを重視する授業です。論文を書く・批判的に読む・発表する・議論する——を繰り返していきます。アウトプットは「自分にしか書けないことを、誰にでもわかりやすく」を重視しています。そのために日常課題にも取り組みます。

「質問力を磨く(ClassQ)」では「多様な人々と協働できるリーダー」育成を目指しています。多様な背景の人々と力を合わせるリーダーだからこそ、「自分にしか書けないことを、誰にでもわかりやすく」伝える力が不可欠です。その力の根底にあるのが「質問力」。多様な人々とは、どのような文化や思考を持った人なのでしょうか。協働するとは、どういうことでしょうか。すべては質問から始まります。

教材は読売新聞です。インターネットではなく、紙の新聞を購読してください。課題図書「日本社会のしくみ」(小熊英二著、講談社現代新書)を批判的に読み、中間論文とします。毎週1回、図書館の専門家から小説を推薦してもらいます。

最終課題は二つあります。

一つは論文です。あなたの一生分の収支を計算し、実現するための課題を3,000字以内で論じてください。こちらは個人ワークです。もう一つはチームでのポスター制作です。テーマは「給料は誰がどのように決めるべきか」。いずれも、企業へのインタビューを踏まえてください。

新聞と本を通して世界を俯瞰し、他大学の学生とのチームワークやディスカッション、企業へのインタビューなど、多彩な経験を重ねて知的体力をつけましょう。

*水曜2限クラスは、授業に企業人や上智など他大学の学生が参加しています。最終課題も他大学との合同チームで取り組みます。

*12月18日(土)と2022年1月8日(土)は対面での授業です。それ以外は対面・Zoomで行います。

*0~4単位の授業です。金曜日+月、火、水曜日の2コマを履修してください。

講師 金2

松本美奈(講座責任者)

+ QBs(Question Birds: 学生による学習サポーター)

水2

松本美奈

月2、3、水4

霜鳥駿太

火1、2

中村まい

2. 授業の到達目標

(1) 新聞を毎日読む(社会性)。

(2) 自分以外の誰かの立場で問う(俯瞰する)。

(3) 自分にしか書けないことを、誰にでもわかるように表現する(独創性、論旨明快、適切な言葉、推敲、読ませるタイトル)。

3. 成績評価の方法および基準

(1) 日常課題(社説の視写、コンセプトマップ+質問) 50%

最低基準: 毎週各2回(計4回)★15週 基準を超えた取り組みのみ評価対象とします。

(2) 中間課題(論文) 20%

課題図書「日本社会のしくみ」にない論点を見つけなさい。

その際に、なぜその論点が重要なのか、別の文献を引用し、1500字以内で論じなさい(手書き、縦書き原稿用紙)。

(3) 最終課題(論文) あなたの一生分の収支を計算し(Excel、Numbers)実現するための課題を3,000字以内で論じなさい(手書き、縦書き原稿用紙)。 30%

*締め切り: (2)…11月5日(金)

(3)…12月17日(金)

(1)…2022年1月7日(金)

4. 教科書・参考文献

教科書

読売新聞の朝夕刊

読売新聞社

小熊英二 日本社会の仕組み 講談社現代新書

5. 準備学習の内容

(1) 読売新聞の朝夕刊を毎日読んでください。

…授業日だけ新聞を読んでも、理解は困難です。社会は日々刻々と動いているからです。

(2) 社説を書き写してください(社説の視写)。

…論調への迎合は求めていません。社説を書き写し、論の立て方を学びましょう。

(3) 気になった記事を読んで、コンセプトマップを広げ、質問を書き出してください(Cマップ)。

…自分以外の誰かの視点で、記事をもとにコンセプトマップを広げてみましょう。

その過程で浮かんできた疑問を言語化し、質問にします。

(4) 授業時間外にチームで調べ学習をし、発表資料を作ります。

6. その他履修上の注意事項

・日常課題は最終的にファイルにまとめて提出します。返却された課題は必ずファイリングしてください。

・金曜日は「理論編」。QBsと呼ばれる学習サポーターたちが伴走します。月、火、水は「実践編」。少人数でのチームワークが中心です。いずれもインプット3、アウトプット7で進めます。

・金曜日は図書館のスタッフからの本の紹介もあります。100字書評を書いてください。任意ですが、「読む・書く」力を伸ばしたい学生におすすめです。

7. 授業内容

- 【第1回】 新聞で遊ぶ
***当日の読売新聞朝刊、ハサミ、のり、色鉛筆やクレヨン、ペンを持参してください。
・まわしよみ新聞で、新聞の構成を知る。
・社説を書き写す
・コンセプトマップを広げてみる
- 【第2回】 なぜ質問力か、なぜ新聞か(9月24日)
・なぜ質問力が必要なのか
・なぜ新聞なのか
・なぜ紙なのか
・なぜ「手で書く」なのか Q&Bsと一緒に書いてみよう。
- 【第3回】 質問を作る①
・新聞でQに挑戦する
・ひとり10個質問することを目標に
・たくさん質問するのは難しいか、簡単か
- 【第4回】 手で書くとは何がつかめるか(10月1日)
・ピアレビュー
・コンセプトマップを広げる
・社説を視写する
- 【第5回】 質問を作る②
・ひとり10個の質問を作る
・新聞でQ
・役割分担をしながら(チームワーク実践)
- 【第6回】 質問をつくる③(10月8日)
・ピアレビュー
・新聞でQ
・情報カードで遊ぶ。発想を広げよう
- 【第7回】 質問をつくる④
・新聞でQ
・情報カードで遊ぶ。仲間と発想を広げよう
- 【第8回】 質問をつくる⑤(10月22日)
・ピアレビュー
・論文には何が必要か
- 【第9回】 質問をつくる⑤
・新聞の読み方を確認しよう
- 【第10回】 質問を作る⑥(10月29日)
・ピアレビュー
・質問出しのルールを俯瞰する
- 【第11回】 質問を分類する①
・開いた質問と閉じた質問とは何だろう
・それぞれの長所と短所を考えよう
- 【第12回】 論文を書くために(11月5日)
・ピアレビュー
 日常課題、中間課題とも
 ・論文をふりかえる 最終課題に向けて
宿題 「私の生涯賃金を考える」
 11月12日の授業に持参してください。
 持参しない人は、授業に参加できません。
- 【第13回】 質問を分類する②
・分類することで何がわかるだろうか
・新聞でQ
- 【第14回】 企業人と議論 質問を使う(11月12日)
 企業人を招いて議論します。
 テーマ「私の生涯賃金はいくらだろうか」
 12月午後1時半～ 企業人と懇談する会@アカデミックラウンジ
 テーマ「給料は誰がどのように決めるべきか」
- 【第15回】 質問を転換する①
・開いた質問を閉じた質問に
・閉じた質問を開いた質問に
・転換することで何が見えてきたか
- 【第16回】 質問を転換する② (11月19日)
・ピアレビュー
・転換することで質問はどう変わるか
- 【第17回】 質問を転換する ③
・転換することで、何が変わったか
- 【第18回】 質問を使う① (11月26日)
・ピアレビュー
・その質問は伝わるか
・いつもの自分の表現をふりかえる
・チラシをつくる
- 【第19回】 質問を使う③
・その質問は伝わるか
- 【第20回】 質問を使う④ (12月3日)
・ピアレビュー
・チラシを披露する
・伝えると伝わるは同じか、違うか

- 【第21回】 <21>質問を使う⑤
・伝えたいように伝わらないのはなぜか
- 【第22回】 なりきる ①(12月10日)
・ピアレビュー
・なりきるのは難しいか、易しいか
- 【第23回】 なりきる ②
・なりきるために何をしているか
- 【第24回】 立ち止まって考える①(12月17日)
・ピアレビュー
・書くことで何を得ているか
・取捨選択のために
- 【第25回】 質問で探す② マラソンQ 12月18日(土)10時～16時(15時～16時はポスター準備会)
・図書館で資料を探す
・多くを問う者は多くを得る
・質問でポスターを描く
- 【第26回】 立ち止まって考える②
・探すための質問と、質問のための質問
- 【第27回】 自分にしか書けないことを、誰にでもわかるように(2022年1月7日)
・最終論文、ポートフォリオ(日常課題とリフレクションシートをまとめたファイル)提出
・ピアレビュー
- 【第28回】 ポスターセッション 1月8日(土)10時～13時
ソラティオスクエア3階アカデミックラウンジ
*ドレスコードあり(ライブで中継します)
- 【第29回】 言葉を磨く
・ポスターを作り直すのなら何をどう変えるか
- 【第30回】 成長を言語化する (1月14日)
・目標を達成したか